

愛知県田原市から得られたツバメコノシロ科ツバメコノシロ属の稀種ナンヨウアゴナシと渥美半島南岸における本属魚類の出現状況

高梨佑真¹⁾

Record of *Polydactylus sexfilis* (Polynemidae) from Tahara City Aichi Prefecture, central Japan, with notes on the occurrence of the genus in south coast of Atsumi peninsula

Yuma Takanashi¹⁾

はじめに

ツバメコノシロ科魚類 (Polynemidae) は三大洋の熱帯から温帯域に広く分布し、8属43種が知られる(本村, 2018)。本科魚類は体が側偏し、やや細長いこと、眼が発達した脂脰に被われること、口は亜端位から下位であること、胸鰭が上下2基に分かれ、下方は鰭膜を伴わない遊離軟条を形成すること、側線が尾鰭鰭膜後端直前に達することなどの特徴で定義される (Motomura, 2004)。

本科魚類のうち、日本からはミナミコノシロ *Eleutheronema rhadinum* (Jordan and Evermann, 1902)、ナンヨウアゴナシ *Polydactylus sexfilis* (Valenciennes in Cuvier and Valenciennes, 1831)、カタグロアゴナシ *Polydactylus sextarius* (Bloch and Schneider, 1801) およびツバメコノシロ *Polydactylus plebeius* (Broussonet, 1782) の4種が記録されている (本村, 2018)。

このうちナンヨウアゴナシはインド・太平洋の島嶼域を中心に広く分布することが知られており (Motomura et al., 2001; Motomura, 2002, 2004)、日本国内においては西表島、石垣島、沖縄島、与論島、奄美大島、小笠原諸島父島、伊豆諸島八丈島、和歌山県串本町、神奈川県相模湾および福島県南相馬市から記録されていた (Motomura et al., 2000; Motomura and Senou, 2002; Senou

et al., 2006; 瀬能, 2013; 本村, 2014, 2019; 富森・松沼, 2020; 浜橋, 2025)。

2025年8月30日に、愛知県田原市の遠州灘に面した砂浜から形態的特徴によりナンヨウアゴナシに同定される1個体を採集し、標本として保存した。本標本は本州沿岸からの4例目の記録となるとともに、愛知県からの初記録である。また、同地点を含む渥美半島南岸におけるツバメコノシロ属の出現状況についても、併せて報告する。

材料と方法

標本の計数・計測方法は Motomura et al. (2001) にしたがった。標準体長は SL と略記した。体各部の計測はデジタルノギス (株式会社ミットヨ CD-15APX) を用いて 0.1 mm 単位で行い、計測値は SL に対する百分率で示した。色彩の記載は、固定前にマクロレンズを装着したデジタルカメラ (ニコン社 D800) で撮影されたカラー写真に基づく。記載標本は MS222 (シグマ社) で麻酔したのち、1%グルタルアルデヒドと2%パラホルムアルデヒドを含む 0.1M リン酸緩衝液で固定した。固定後は水洗し、70%エタノールに移して保存した。記載標本は豊橋市自然史博物館魚類資料 (TMNH-F) に収蔵されている。

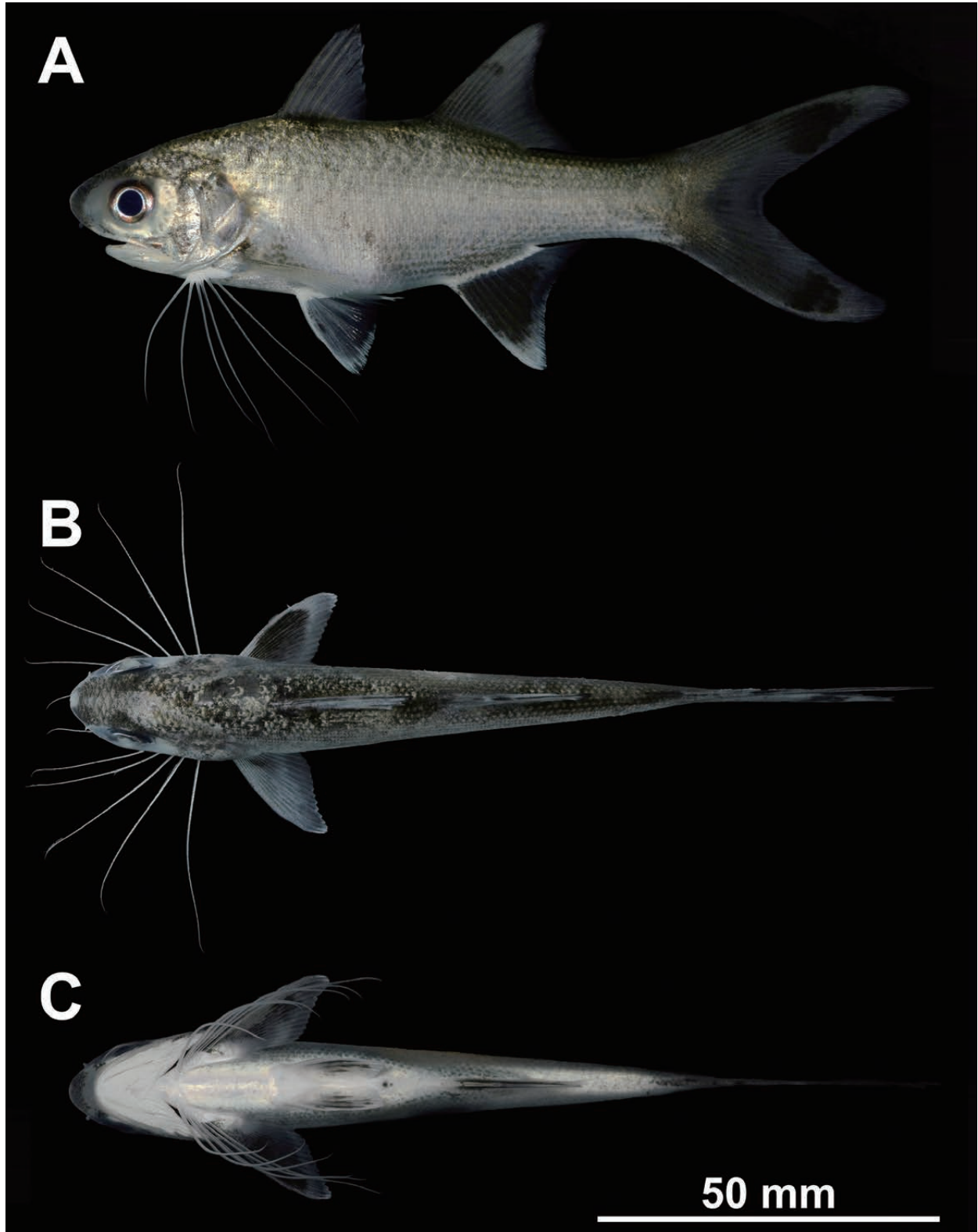
1) 名古屋大学大学院生命農学研究科水圏動物学研究室。Laboratory of Fish Biology, Department of Animal Sciences, Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University, Nagoya, Japan. E-mail: takanashi.yuma.a3@s.mail.nagoya-u.ac.jp

原稿受付 2025年10月1日。Manuscript received Oct. 1, 2025.

原稿受理 2025年10月8日。Manuscript accepted Oct. 8, 2025.

キーワード: 魚類相, 分布記録, 条鰭類。

Key words: Fish fauna, distributional record, Actinopterygii.



第1図. ナンヨウアゴナシ (TMNH-F-2634), 88.9 mm SL, 2025年8月30日採捕, 愛知県田原市, 遠州灘, A. 側面; B. 背面; C. 腹面.

ナンヨウアゴナシ *Polydactylus sexfilis* (Valenciennes in Cuvier and Valenciennes, 1831) (第1図; 第1表)

標本 1標本: TMNH-F-2634, 88.9 mm SL, 愛知県田原市 New Japan Beach 付近の砂浜 (34° 36'13.4"N, 137°

11°05.7"E), 手網, 水深約 30 cm, 高梨佑真・高橋伸児, 2025年8月30日.

記載 各体部の SL に対する割合と計数値を第1表

に示した。体は側偏し、やや細長い。体高は第一背鰭起部で最大になる。肛門は腹鰭基部内側と臀鰭のほぼ中間に位置する。頭は大きい。体背縁は吻端から第一背鰭始部にかけてほぼ直線状に上昇、そこから第二背鰭始部にかけては体軸と平行、第二背鰭基底で僅かに下降し、尾鰭基部にかけては直線状で僅かに下降する。体腹縁は下顎先端から肛門にかけて緩やかに下降し、臀鰭始部にかけては緩やかに上昇、臀鰭基底後端にかけて急に上昇、尾柄にかけて僅かに上昇する。吻は突出し、先端は丸い。口は下位で大きく、口裂の後端は眼窩の後縁直下を大きく越える。上顎の先端は下顎に比べてわずかに前方へ突出し、下顎先端は眼窩の前縁直下の直前に位置する。両顎歯は小さく円錐形で不規則に並ぶ。鼻孔は眼窩の前方に位置する。前鼻孔は上下にやや長い楕円形で突出した皮弁を伴う。後鼻孔は裂状で前鼻孔より縦長。眼は円形で大きく、眼窩径は脂脣に被われる。前鰓蓋骨後縁に多数の小棘をもつ。鰓蓋の後端は背鰭始部直下の直前に位置する。第一背鰭棘は短く第3棘が最長。第1背鰭は第2背鰭より僅かに低い。第2背鰭始部は腹鰭後端直上より僅かに後方に位置する。胸鰭は体側の正中線よりやや下方に位置し、上下で2基に分かれる。胸鰭上部の軟条は不分枝。胸鰭下部の遊離軟条は6本で後方に倒した後端は肛門に達する。腹鰭基部は第1背鰭第4棘基部直下に位置する。臀鰭は第2背鰭始部直下より僅かに後方から始まる。尾鰭は二叉し、中央部で強く湾入する。尾鰭上葉は下葉より僅かに長い。側線は鰓孔上端から発し、尾柄部中央まではほぼ直線上で、尾鰭鰭膜上に達する。体は均一な大きさの櫛鱗で覆われる。頭部の側面と腹面は脂脣部を除いて櫛鱗で被われ、吻腹面と両顎は無鱗。

色彩 頭部と体の地色は銀白色で、吻端から尾鰭基底にかけての体背縁は黒みがかった銀白色。虹彩は銀白色で眼窩上縁と下縁付近はやや橙色みを帯びる。瞳孔は黒色。遊離軟条を除き各鰭の地色は半透明。第1、第2背鰭共に縁辺は黒色。胸鰭は白色で鰭膜中央は一部黒色。遊離軟条は白色。腹鰭は白色で鰭膜は一部黒色。臀鰭は第1-9軟条間の鰭膜に黒色素胞が密集し、その縁辺は白く縁どられる。尾鰭鰭膜は縁辺を除いて黒色素胞が散在し、後縁と両葉後端は黒色。

分布 本種はモーリシャス諸島、セーシェル諸島からトゥアモトゥ諸島、日本にかけてのインド・太平洋の島嶼域を中心に広く分布する (Motomura et al., 2001 ;

第1表. ナンヨウアゴナシ (TMNH-F-2634), 88.9 mm SL, 2025年8月30日採捕, 愛知県田原市, 遠州灘, 計数・計測値.

	TMNH-F-2634
Standard length (SL: mm)	88.9
Counts	
Dorsal-fin rays	VIII-I, 13
Anal-fin rays	III, 12
Pectral-fin rays	15
Pectral filaments	6
Pelvic-fin rays	I, 5
Pored lateral-line scales	63
Scales above/below lateral line	8/14
Gill rakers	13+16=29
Measurements (%SL)	
Head length	31.7
Body depth	28.3
Second body depth	27.4
Body width at pectoral-fin base	13.5
Snout length	8.1
Dermal eye opening	7.2
Orbit diameter	8.8
Interorbital width	9.7
Postorbital width	18.3
Upper-jaw length	13.8
Pre-1st dorsal-fin length	34.9
Pre-2nd dorsal-fin length	59.7
Pre-anal-fin length	62.2
First dorsal-fin origin to anal-fin origin	40.2
Pelvic-fin origin to anal-fin origin	25.1
Second dorsal-fin base length	16.6
Anal-fin base length	15.4
Longest pectoral-fin length	22.6
Longest pectoral-filament length (6th)	38.2
Pectoral-fin base length	11.0
Longest pelvic-fin ray length (1st)	16.0
Longest 1st dorsal-fin spine length (3rd)	19.5
Second dorsal-fin spine length	9.2
Longest 2nd dorsal-fin ray length (2nd)	25.3
Longest anal-fin spine length (3rd)	8.5
Longest anal-fin ray length (2nd)	19.5
Caudal-peduncle length	26.9
Caudal-peduncle depth	13.3
Upper caudal-fin lobe length	45.0
Lower caudal-fin lobe length	41.7

Motomura, 2002, 2004 ; 瀬能, 2013). 日本国内からは、八重山諸島 (石垣島, 西表島), 沖縄諸島 (沖縄島), 奄美群島 (奄美大島, 喜界島, 与論島), 伊豆諸島 (八丈島), 小笠原諸島 (父島), 相模湾, 紀伊半島 (和歌山県串本町), 福島県南相馬市沿岸から記録がある (Motomura et al., 2000 ; Motomura and Senou, 2002 ; 瀬能, 2013 ; 本村, 2014, 2019 ; Nakae et al., 2018 ; Fujiwara and Motomura, 2020 ; 富森・松沼, 2020 ; 浜橋, 2025). 本研究により、新たに遠州灘沿岸 (愛知県田原市) からの記録が追加された。

同定 記載標本は胸鰭遊離軟条が6本で、その先端が尾柄半ばに達しないこと、遊離軟条をのぞいた胸鰭軟条は15本で不分枝であること、臀鰭軟条が12本であること、下顎前方の唇は発達すること、側線始部は暗色斑を欠くこと、総鰭耙数が29本であることなどがMotomura et al. (2001), Motomura (2002, 2004) および瀬能 (2013) が示した *Polydactylus sexfilis* の特徴によく一致したため、本種に同定された。

本種は多くの形態的特徴においてツバメコノシロによく類似しているが、胸鰭遊離軟条数が6 (vs. 後者では5)、胸鰭軟条数が15–16 (vs. 16–18)、鰭耙数が27–31 (vs. 24–32) であることなどにより識別される (Motomura, 2002)。

生態的知見 記載標本は、風・波の比較的穏やかな日の夜間に水深約30 cmの砂浜の波打ち際から採集された。また、記載標本と同日・同地点からは9個体のツバメコノシロ属の一種の群れが複数観察された。同地点周辺の渥美半島の南岸の砂浜においては2019年以降、毎年9–11月ごろにかけてルアーフィッシングなどによりツバメコノシロ属の一種が釣獲されている (<https://anglers.jp/prefectures/23/fishes/581>, 2025年9月13日閲覧)。また、1968年の10月にも愛知県豊橋市の遠州灘に面した渥美半島沿岸からツバメコノシロ (TMNH-F-43, SL 146.0 mm) が記録されている (中島, 2003)。これらの個体はいずれも未成熟と思われ、春季や初夏に確認されていないことから黒潮により南方から輸送され、冬期の冷水温で死滅している可能性が高いが、今後の調査が望まれる。以上の知見から高水温下の渥美半島南岸は本属魚類の成育に適した環境であると推定される。

謝 辞

本報の執筆にあたり、愛知県犬山市の高橋伸児氏には採集にご協力頂いた。鹿児島大学大学院連合農学研究科魚類分類学研究室の是枝伶旺氏ならびに香川県三木町の難波拓登氏にはツバメコノシロ属魚類の生態的知見について有益な助言を賜った。高知大学大学院総合人間自然科学研究科海洋生物学研究室の熊木慧弥氏には本稿をお読みいただき様々な有益なコメントを賜った。名古屋大学生命農学研究科水圏動物学研究室の山本直之教授と萩尾華子助教には標本の作製にご協力いただいた。豊橋市自然史博物館の坂本博一氏には

標本の登録・保管に便宜を図っていただいた。匿名の審査者二名には原稿に対して適切な助言をいただいた。上記の方々に深く感謝申し上げます。

引用文献

- Fujiwara, K. and Motomura, H., 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Kikai Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 259 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, **14**: 1–73.
- 浜橋 丈, 2025. 福島県から得られた北限記録のナンヨウアゴナシ (ツバメコノシロ科). *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, (49): 10–13. https://doi.org/10.34583/ichthy.49.0_10
- Motomura, H., 2002. Revision of the Indo-Pacific threadfin genus *Polydactylus* (Perciformes: Polynemidae) with a key to the species. *Bulletin of the National Science Museum, Tokyo, Series A (Zoology)*, **28**: 171–194.
- Motomura, H., 2004. *Threadfins of the world (Family Polynemidae). An annotated and illustrated catalogue of polynemid species known to date*. FAO species catalogue for fishery purposes No. 3. FAO, Rome, vii + 117 p., 6 pls.
- 本村浩之, 2014. ナンヨウアゴナシ. 本村浩之・松浦啓一 (編), 奄美群島最南端の島—与論島の魚類, 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば, 261.
- 本村浩之, 2018. ツバメコノシロ科. 中坊徹次 (編), 小学館の図鑑Z 日本魚類館 精緻な写真と詳しい解説 (第1刷), 小学館, 東京, 328–329.
- 本村浩之, 2019. ツバメコノシロ科. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編), 奄美群島の魚類図鑑, 南日本新聞開発センター, 鹿児島, 255.
- Motomura, H. and Senou, H., 2002. Record of *Polydactylus sexfilis* (Perciformes: Polynemidae) from Hachijo-jima, Izu Islands, Japan with comments on morphological changes with growth and speciation of related species. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Sciences)*, **31**: 27–31.
- Motomura, H., Burhanuddin, A.I. and Iwatsuki, Y., 2000. Distributional implications of a poorly known polynemid fish, *Polydactylus sexfilis* (Pisces: Perciformes), in Japan. *Bulletin of the Faculty of Agriculture, Miyazaki University*, **47** (1–2): 115–120.
- Motomura, H., Iwatsuki, Y. and Kimura, S., 2001. Redescription of *Polydactylus sexfilis* (Valenciennes in Cuvier and Valenciennes, 1831), a senior synonym of *P. kuru* (Bleeker, 1853) with designation of a lectotype (Perciformes: Polynemidae). *Ichthyological Research*, **48**: 83–89.
- Nakae, M., Motomura, H., Hagiwara, K., Senou, H., Koeda, K., Yoshida, T.,

- Tashiro, S., Jeong, B., Hata, H., Fukui, Y., Fujiwara, K., Yamakawa, T., Aizawa, M., Shinohara, G. and Matsuura, K., 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo*, **52**: 205–361.
- 中島徳男, 2003. 愛知県近海の魚類. 自費出版, 愛知, 198 p., 79 pls.
- 瀬能 宏, 2013. ツバメコノシロ科. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索—全種の同定—第三版, 東海大学出版会, 秦野, 1086–1087, 2043–2045.
- Senou, H., Matsuura, K. and Shinohara, G., 2006. Checklist of fishes in Sagami Sea with zoogeographical comments on shallow water fishes occurring along the coastlines under the Influence of the Kuroshio Current. *Memoirs of the National Science Museum*, **41**: 389–542.
- 富森祐樹・松沼瑞樹, 2020. 和歌山県串本町から得られた本州沿岸2例目のツバメコノシロ科ナンヨウアゴナシの記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, (1) : 22–24. https://doi.org/10.34583/ichthy.1.0_22